

公益財団法人8020推進財団
平成23年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動

2. 申請者名：社団法人富岡甘楽歯科医師会

3. 実施組織名：

富岡甘楽歯科医師会、富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、下仁田町健康づくり推進協議会
下仁田町保健推進員協議会、下仁田町フロリデーション推進会議、住民組織等
厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」、日本口腔衛生学会(学術支援)

4. 事業の概要：

富岡甘楽歯科医師会は、WHO(世界保健機関)が推奨する最も優れた公衆衛生的なむし歯予防対策であるフロリデーションを、富岡甘楽地区に普及させたいと考えている。フロリデーションが実施されれば、子供から高齢者まで、給水地域で生活する住民すべてが、生涯を通じてむし歯予防の恩恵を受けることが可能になり、健康格差の解消にもつながる。

フロリデーションの実施により、むし歯が大幅に減少すれば、国が提唱する8020運動の実現に大きく貢献する。さらに、歯が残り咀嚼力が保持されることは、全身的な病気の予防や健康増進にもつながり、将来は医療費の抑制に結びつくと考えられる。

昨年度は、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」と共同で、乳幼児保護者を対象とした大規模なフロリデーション認知度調査を行った。その結果、過去に行われたフロリデーション推進活動をとおして、住民のフロリデーションに対する認知度が向上し、多くの人がフロリデーションへの意欲を持っていることが分かった。一方で、まだ漠然とした不安を感じている住民も存在している。

フロリデーションを実施するためには、住民に適切な情報を十分に提供し、その理解と賛同を得ることが前提になる。今年度も科学的に根拠のある情報を継続的に発信し、フロリデーションの実施をめざして啓発活動を続けている。

5. 事業内容：

富岡甘楽歯科医師会は、フロリデーションの実施をめざした啓発活動の一環として、市町村や関係団体と連携して下記の事業を実施した。活動の内容は、教育媒体の開発と配布(2)～(9)、啓発現場活動の実践(1)、(11)、(14)～(16)、広報活動(10)、組織活動(12)、保健政策の立案(13)など、多岐にわたっている。

- (1) 歯の衛生週間行事「歯の健康フェア 2011」(第26回)を開催(フロリデーション啓発コーナーを設置)
- (2) リーフレット「一生自分の歯で食べるために」(A4版4ページ)を制作(33,000部印刷、6月に全世帯へ配布予定)
- (3) リーフレット「フロリデーション 水道水とフッ化物でみんなの歯を健康に」を富岡甘楽地区の全世帯(約28,000)に配布(6月の広報配布時、行政組織の協力)
- (4) リーフレット「フッ化物でむし歯を減らす いろいろな方法」の配布(平成21年度事業からの継続)
- (5) リーフレット「Do you know Fluoridation?」の配布(平成20年度事業からの継続)
(2)(3)(4)(5)は、発行:富岡甘楽歯科医師会 監修:厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」
- (6) フロリデーション啓発用の風船の配布(健康祭、夏祭り等で利用)
- (7) フロリデーション啓発ポスターの掲示(平成19年度事業からの継続)
- (8) チラシ「知っていますか? フロリデーション」の配布(平成19年度事業からの継続)
- (9) クリアファイル「知っていますか? フロリデーション」の利用(平成20年度事業からの継続)
- (10) 富岡甘楽歯科医師会のホームページの充実(フッ化物利用とフロリデーションについての情報を提供)
- (11) フッ化物洗口説明会を利用した啓発(フロリデーションが最も優れた公衆衛生的なむし歯予防法)
- (12) 富岡保健福祉事務所の歯科保健連絡調整会議
- (13) 甘楽町健康づくり推進協議会による「新健康かんら21」の策定
- (14) 下仁田町保健センターに設置されたフロリデーションモデル装置の活用(フロリデーション水の試飲等)
- (15) 下仁田町保健センター主体の活動(保健推進員に対するフロリデーションの説明など)
- (16) 下仁田町フロリデーション推進会議主体の主な活動(定例会の開催、夏祭りへの参加、第60回日本口腔衛生学会での研修など)

6. 実施後の評価(今後の課題)：

富岡甘楽地区では、市町村の協力によりリーフレットを全世帯に配布するなど、フロリデーションについての情報を継続的に提供できる体制が整備されている。その結果、フロリデーションについてある程度の知識を持つ住民は、富岡甘楽地区全域で毎年確実に増加している。フロリデーションについて正確な知識を持つ人は、その実施についても肯定的な意見を持つ場合が多いので、今後も正確な情報を提供し啓発活動を継続していく必要がある。今後、国や県の積極的な支援があれば、フロリデーションを実施するための環境が整うと考えている。